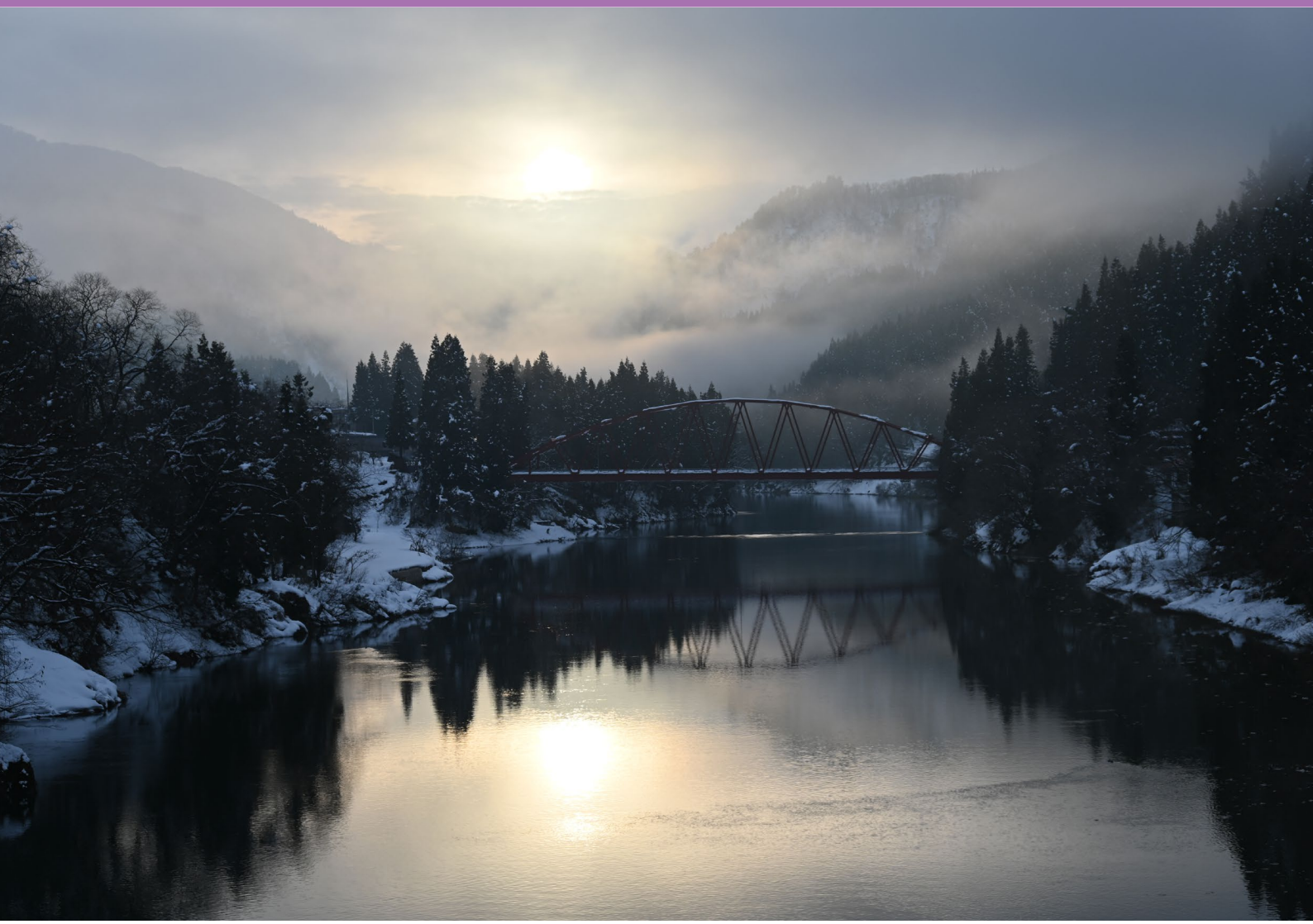
2023
1
January
No. 359

広報みしま

福島県
大沼郡
三島町

三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

Mishima Town Public Relations



謹賀新年

あけましておめでとうございます。三島町の年末年始は大雪に見舞われることなく、穏やかな新年を迎えることができました。2023年も野山を駆け回る真っ白な兎の様に飛躍できる素晴らしい年になりますよう願っております。本年も何卒よろしくお願いいたします。

主な内容

新年のご挨拶	2～3
まちの話題	4～6
町民記者	7
大谷川埋もれ木調査報告会	9
	など

新年のご挨拶を申し上げます

過去から未来を学ぶ町づくり

三島町長　矢澤源成（やざわ　げんせい）

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっている中でのうさぎ年を迎えましたが、コロナ禍に加え、ロシアによるウクライナ侵攻がより一層世界や日本の経済状況を不安定にしているのは皆さんご承知のとおりであります。

ゼロコロナからウィズコロナへの大きな潮流の中、経済も動かすことが大事なことから、感染対策に十分に配慮し、令和4年は様々な事業に取り組んでまいりました。令和5年においても国や県、宮下病院や奥会津在宅医療センターと連携を密にし、各方面のご指導ご協力のもと事業を実施してまいります。

さて、従来から積み重ねてきた人類の英知の歴史の蓄積は、民族・宗教間の争いや世界のグローバルから国境の壁を低くし、人の往来や物、お金の動きを容易にし、世界の平和と成長を願う事でありました。特に日本においては、さらに1億人総中流意識の増幅を展開するものであるという考えがありましたが、その様な方向には世界も日本もなっておらず、富裕層と貧困層の二極化現象が進んでいるのが現実であります。

経済の成長をさらに追い求めるのは、日本にとって幸福感を追い求める事になるのか、非常に疑問であるという経済学者もいます。世界的な金融資本の流れが膨張し、実物経済を振りまわす時代になっていると現在の経済構造を分析し、格差拡大の時代の到来であり、政策で成長を目指すほど時代の流れから取り残された人々が増え、将来の不安が高まり、日々の生活を充実優先する刹那主義が蔓延し、いっそう「少子化」が進むという学者がいます。

この実態の分析を、数人の学者の意見として無視することは許されないと考えています。これらの現実的な動きを捉えながら、発想の転換が必要であり、成長型社会という過去からの脱却から、持続可能な共同型社会を創る必要があると考えています。

経済の成長という過去に帰るのでなく、経済も共同体型社会も共に生きる社会を創る事が今こそ地方に託されている未来の日本でないのかと考えます。それは世界からではなく、地方からの発想が求められ、未来を創る事であると考えます。そのキーワードは成長から健康、環境、そして安全や再生であります。

結びに、今後も職員共々、町民の皆様の声を町政に反映させながら町づくりのテーマである「住みたい、住み続けたふるさと（桐源郷）を創る」に向かって全力である決意です。町民の皆様の温かいご理解と力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。この一年が町民の皆様にとって幸多き年となりますようご祈念申し上げまして新年のご挨拶といたします。

あけましておめでとうございます

町民の安全・安心な日々の生活のため

三島町議会議長　青木喜章（あおき　きしょう）

新年あけましておめでとうございます。昨年は12月から豪雪に見舞われ、厳しい寒さと大雪の中、新年を迎えられたこととご推察申し上げます。令和5年の年頭にあたり議会を代表し新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が全国に広がってから早3年が過ぎますが、一向に収束の気配はなく、昨年からの第8波の渦中にあります。当町でも多くの方が感染しておりますが、ワクチン接種が進み幸い重症化まで至ることは少ないと聞きます。まだまだ感染対策など、普段の社会生活までは至っておりません。一日も早い収束を願うばかりです。

そのような中でも、昨年は10月1日にＪＲ只見線の全線再開通という大きな喜びがありました。11年ぶりということで沿線自治体は大いに活気づけられましたが、今後の利活用については、施設の維持管理費の負担とともに、町民全体で考えていかなければならないことであると考えます。また2年間中止となりました、三島町の最大のイベントである「ふるさと会津工人まつり」は規模を縮小しながらも開催できたことは、コロナ禍でのイベント開催の方法が見出され、今年の開催に望みが持てました。

農家を悩ませる鳥獣被害については減少するどころか、増加傾向にあり個々の対策では限界があると考えます。地区をあげての集団的な対策と、捕獲が最大の被害防止になると考えますが、捕獲数が増えないのが現状です。狩猟免許保持者の高齢化が進む中、今後は若い世代の狩猟免許の取得を推進し、安定的な捕獲体制の確保が望まれます。

みしまテレビでは一昨年から議会の様子を放送し始めたところ、町民の方々より様々なご意見をいただき、議会活動への関心の高さを感じております。今後も町の様々な情報をお伝えしてまいりますので、ご意見ご要望等がありましたら町・議会まで声をお寄せください。

さて、令和5年の大きな取り組みとしては、全国同様の課題である少子化による人口減少、過疎・高齢化への対策だと考えます。全国の市町村では特効薬的な解決策を見出せていないのが現状です。しかし手をこまねいてはいられません。あらゆる取り組みを進めていかなければなりません。三島町には多くの「資源」があります。「伝統工芸」「伝統行事」「観光・自然」等、歴史ある資源を再び見直し活用し、交流人口・関係人口、そして定住人口の増加につながる取組みが大切と考えます。

日々安心した生活のための基本である医療においては、県立宮下病院の移転建替えの計画も順調に進んでおり、奥会津在宅医療センターの継続も決まっております。

今年こそは安全・安心という大前提の中で、コロナ禍以前のような生活・イベントが出来ることを願うばかりです。安心ということでは、今年工事に着手予定のガソリンスタンドが計画通りに完成し、町内でいつでも安定した給油ができるようになることも大きな安心の一つです。

今後も議会では町当局と話し合いながら、町民の皆様の安全・安心な日々の生活のためにまい進してまいります。

今年1年の町民の皆様のご繁栄とご多幸をご祈念申し上げ年頭のご挨拶と致します。

死亡叙勲
（故）五十嵐光義さんに旭日単光章

（故）五十嵐光義さん（滝谷）が、死亡叙勲において旭日単光章を受章され、11月28日に会津地方振興局の髙野武彦局長から柴田仁美さん（長女）に伝達されました。

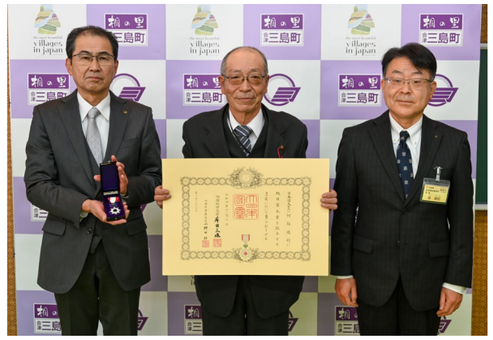
昭和63年5月に三島町議会議員に当選以来、平成20年5月まで通算4期16年にわたり在職し、平成4年から平成8年までの4年間は総務常任委員会副委員長として、議会の円滑な運営と町教育、文化、福祉の向上・発展に多大な貢献をされました。

▲ 左から髙野局長、柴田仁美さん、矢澤町長

令和４年秋の叙勲
阿部通利さんに旭日単光章

阿部通利さん（桧原）が、令和4年秋の叙勲において旭日単光章を受章され、12月23日に会津農林事務所の星源昭（げんしょう）所長より伝達されました。

葉タバコ農家を営み、平成11年に農業委員となり、平成20年から現在まで会長を務め、両沼地方農業委員会長会会長、会津若松地方農業委員会連合会副会長なども歴任されました。農地の無断転用の防止、耕作放棄地解消の取組みなどに尽力されています。



▲ 左から小堀副町長、阿部通利さん、星所長

地域文化功労者文部科学大臣表彰
角田伊一さんが受賞

令和4年11月15日、永年にわたる文化財保護活動が評価され、三島町文化財保護審議会長の角田伊一さん（川井）が文部科学大臣より地域文化功労者文部科学大臣表彰を受けられました。角田さんは昭和30年代後半から『三島町史』をはじめとする自治体史の執筆や蝶の研究、文化財の調査・研究・保護等を行い、その成果を広報や書籍、講演等で発表、近年はホームページでも発信を行うなど、町の文化財保護やその活用の中心的役割を担ってきました。

▲ 左から山口教育長、角田伊一さん、矢澤町長

12月19日には福島県庁において伝達式が行われ、大沼博文福島県教育委員会教育長より表彰状と記念品である木杯が代理で出席した山口教育長に手渡されました。同月28日には、角田さんから三島町長に表彰の報告がなされました。

新春祝賀会
自治功労者表彰

新春祝賀会並びに自治功労者表彰式は1月4日、町民センターで行われました。新春祝賀会では、会食はせずにお越しになった皆さんと顔合わせをし、新年の挨拶を交わしました。

また、自治功労者表彰では、功労のあった次の方々に、矢澤町長から表彰状と記念品が贈られました。

▲ 令和５年三島町新春祝賀会の様子

▲ 左から滝谷建設工業㈱取締役営業部長板橋康宏さん、矢澤町長、社会福祉法人みしま理事長秦千代栄さん、佐久間建設工業㈱常務取締役鈴木勝弘さん

自治功労者表彰

功労者表彰	感謝表彰
【振興計画審議会委員】 秦　千代栄　様（西会津町）	【多額の寄付】 滝谷建設工業㈱ 代表取締役社長　田中　智仁　様（宮下） 佐久間建設工業㈱ 代表取締役社長　佐藤　岩男　様（早戸）

令和４年新嘗祭（にいなめさい）知事表敬訪問
小松正信さん、万樹子さんご夫妻（西方）が知事へ報告

令和4年度新嘗祭で天皇に献上するための献穀米を栽培するための献穀者に三島町で初めて選ばれた小松正信さん、万樹子さんご夫妻が、10月に献穀田で収穫された米の贈呈及び米の作柄について報告するため、県知事を表敬訪問しました。

例年、11月の新嘗祭献穀献納式で献穀者から直接献納されますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となったため、輸送による献納となりました。

小松ご夫妻には、宮内庁掌典長からの伝達書の交付と盃が、また、県からの記念品である桐箱が内堀県知事から贈呈されました。

▲ 献穀田で収穫された米を手にする内堀県知事（中央）と伝達書と記念品を手にする小松ご夫妻

雪の季節に備えて　～神社周辺の整備を行う～（11月26日）

小島 純（宮下）

三島神社総代会では、降雪に備えて神社総代10人が集まり、社殿内の清掃と神社周辺の落葉掃き、参道の灯篭の雪囲いを行いました。12月31日には、新年の初詣に備えて参道の除雪や社殿の清掃を行いました。

みんなで茹でたてのそばを味わう　～収穫祭行われる～（11月28日）

小島 純（宮下）

みやした蕎麦と豆腐の会が、宮下活性化センターにおいて収穫祭を開催しました。同会は遊休農地を利用してソバを育て、宮下地区の景観を美しく保つことを目的として活動しています。この日は、活動に協力している「蕎麦の花でいっぱいの景観づくり応援団」や住民の方々が参加し、佐久間宗一会長のあいさつのあと、ゆでたての蕎麦の美味しさを味わいながら交流を深め合いました。

早戸地区の恒例クリスマス会（12月19日）

橋本 光五郎（早戸）

恒例となった早戸地区のクリスマス会を、12月19日に開催しました。今年も新型コロナウィルス感染予防の観点からお弁当での開催となりましたが、仕事などの都合でお弁当だけの参加も含め18名の方が参加してくださいました。

それでも久しぶりの地区行事で顔を合わせた皆さんは会話を楽しんでいただけたようです。そして、毎年色々と工夫するクリスマスプレゼントですが、今年は豆皿、袋物、焼き菓子のセット。さて、今年のプレゼントの目玉である「豆皿」をどのように活用してくれるのかが楽しみです。

▲プレゼントの目玉「豆皿」

▲袋物・焼き菓子

訂正のお知らせとお詫び

広報みしま12月号の記載内容に誤りがございました。お詫び申し上げますとともに、次の通り訂正いします。

【訂正箇所】広報みしま12月号（6Ｐ）　町民記者通信
●冬の準備「冬囲いと清掃作業」佐々木邦雄（桧原）
（誤）実施日（10月30日）
（正）実施日（11月　6日）

東北経済産業局長表彰　三島町商工会女性部が受賞

三島町商工会女性部が、東北経済産業局長表彰を受賞し、12月16日に三島町商工会女性部長の諏訪静枝さん（宮下）と三島町商工会の佐藤文代さんが町長室へ報告に訪れました。

三島町商工会では、高齢者で買い物が困難な方の買い物支援や町内の消費拡大を目的に、平成27年から月2回「夕市」を開催しています。女性部では、夕市を盛り上げるため、部員で考案した手作りお惣菜を販売し、さらに買い物が困難な高齢者の自宅まで運ぶサービスを行っていることが高く評価されました。諏訪さんは「今後も、次世代につながる努力をしていきたい」と話しました。

▲左から佐藤文代さん、諏訪静枝さん、小堀副町長

福島県統計功労者表彰　県知事表彰に小島純さん、矢澤昇さん、五十嵐稔さん　統計協会名誉会長表彰に二瓶藤夫さん、目黒恒子さん

11月17日に福島県統計功労者表彰式が開催され、町からは小島純さん（宮下）、矢澤昇さん（高清水）、五十嵐稔さん（大石田）の3名が県知事表彰を、二瓶藤夫さん（大谷）、目黒恒子さん（滝谷）の2名が県統計協会名誉会長表彰を受賞しました。受賞者の皆様は、三島町統計調査員となって以来長年にわたり町の統計調査を支えてこられました。統計調査員として県知事表彰受賞の3名は25年以上、県統計協会名誉会長表彰受賞の2名は7年以上統計調査事務に従事され、その功績が認められ表彰されました。

▲福島県統計功労者表彰を受賞した3名。左から矢澤町長、小島さん、五十嵐さん、矢澤さん。

子ども達から笑顔のプレゼント
三島保育所　クリスマス発表会

三島保育所クリスマス発表会は12月3日に行われました。組ごとに時間をずらしながらの発表会となりましたが、子ども達は緊張しながらも元気いっぱいに劇やダンスを披露しました。会場を訪れた保護者の皆さんは、子どもたちの一生懸命発表する姿に温かい気持ちで見守っている様子でした。

▲きりん組の発表

▲りす組の発表

▲ぱんだ組とうさぎ組の発表

埋もれ木調査報告会

12月3日に、三島町交流センター山びこにおいて、大谷地区の大谷川河床にあった埋もれ木についての調査報告会が行われ、町内外から100名の方が来場されました。

報告会は（一社）IORI倶楽部代表理事の佐久間源一郎さんによる趣旨説明からはじまり、次に7名の研究者による調査報告がなされ（表）、埋もれ木が研究されたことで明らかになった歴史的な発見の数々が披露されました。また、掘り出された埋もれ木、その経緯や分析結果等のパネルが展示され、参加された方々は興味深く見学されるなど、大変盛況な報告会となりました。

大谷川の埋もれ木とは

令和3年2月に、大谷地区の大谷川河床にあった埋もれ木（ケヤキ）が（一社）IORI倶楽部により引き上げられ、分析の結果、約5500年前の遺物と判明しました。沼沢火山が噴火したと考えられる時期に近いことから、ケヤキが火砕流により枯死した可能性が高まり、沼沢火山の噴火とその後の状況をうかがい知る資料であると注目を浴び、令和4年2月には新たにブナ・トチ・カツラの埋もれ木が掘り出され、調査・分析等が多数の研究者により行われました。

5500年前（縄文時代）
「埋もれ木から読み解く沼沢火山大噴火」調査報告会を開催しました！

【主催：（一社）IORI倶楽部・三島町・三島町教育委員会】

表　調査報告会の各演題・講師（敬称略）

報告1「沼沢火山の噴火と大谷川の埋もれ木」 山元孝広（産業技術総合研究所活断層火山研究部門）
報告2「酸素同位体比年輪年代法による大谷川埋没材の分析」 木村勝彦（福島大学共生システム理工学類）
報告3「大谷川埋もれ木の高精度年代測定―放射性炭素（^{14}C）ウィグルマッチングによる―」 早瀬亮介（株式会社加速器分析研究所）
報告4「沼沢火山紀元前3450年の噴火後に只見川で発生した大規模決壊洪水」 片岡香子（新潟大学災害・復興科学研究所）
報告5「沼沢火山噴火と縄文社会への影響」 三浦武司（福島県文化振興財団遺跡調査部）
報告6「沼沢火山大噴火発生当時の東北地方南部の古環境」 苅谷愛彦（専修大学文学部環境地理学科）
報告7「長野県千曲市本誓寺遺跡から見つかった平安時代の埋もれ木と大洪水」 山田隆二（防災科学技術研究所マルチハザードリスク評価研究部門）

第12回『撮』っておきのみしま町フォトコンテスト

「第12回『撮』っておきのみしま町フォトコンテスト」の審査が行われ、県内外から36名、93点の応募作品の中から三島町長賞など9点が決定しました。入賞作品と応募作品は交流センター山びこにおいて、12月13日㈫から1月22日㊐の期間で展示されています。皆さまお誘いの合わせのうえ、ぜひご来場ください。

問交流センター山びこ　☎（52）2165

《三島町長賞》
「菜の花列車」
後藤 修さん（福島市）

《三島町教育委員会教育長賞》
「また一緒に乗ろうね」
栗城 浩美さん（三島町）

《三島町写真クラブ『写団道奥21』会長賞》
「冬景色を描く」
大島 市郎さん（会津若松市）

《三島町文化協会長賞》
「じいちゃん大好き。かわいいまなざし」
佐久間 優子さん（三島町）

《福島民報社賞》
「美坂高原」
鈴木 敦さん（三島町）

《福島民友新聞社賞》
「地区の…お・も・て・な・し」
猪狩 守司さん（いわき市）

《JR只見線車窓からの眺め賞》
「車窓の鉄路」
鈴木 孝二さん（会津若松市）

《三島町交流センター山びこ賞》
「春を走る」
佐藤 眞吾さん（会津若松市）

《三島町交流センター山びこ賞》
「天の川と只見川、星と列車、光の共演」
上野 貴道さん（湯川村）

空き家コラム
空き家に関する思い込み

～空き家あるある！～

空き家に関する思い込みの実際について、お伝えしていきます。

思い込みその５
「まだまだ家は傷まないはず」

多くの空き家所有者の方が思い込んでいることの一つが、「空き家になってもそんなに早くは傷まない。」ということではないでしょうか？１年経ち、２年、３年と過ぎていくと、５年も 10 年も 20 年も一緒のような感覚になってきて、「まだまだうちは大丈夫」と半ば自分に言い聞かせるような面もあるのかもしれません。

しかし、建物は傷みだすとあっという間に朽ちていき、利活用を考えた頃には手遅れとなることもあります。

＊広報 2022 年６月号『老朽化の壁』もご参照ください。

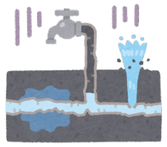
放置すると…

建物は、場合によっては、**１年で傷む**そうです。そして、建物は内部の見えないところから傷んでいきます。外観は大丈夫に見えても、特に古い家の場合は以下に気を付けてください。

①木造の場合は、シロアリの被害

今は基礎にコンクリートが入っていますが、昔の建物は玉石の上に柱が乗っており、外部の影響を受けやすくなっています。踏んで凹むようなところの床下を見てみると、シロアリの被害が広がっていることがあるようです。シロアリは、水回りを好みますので、洗面所やキッチンなど注意が必要です。

②水道配管の傷み



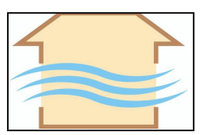
昭和 50 年以前の配管は鉄が使われていることが多く、使わなくなると１年で錆びてきます。錆びた状態で通水し、錆がボイラーに回ると、ボイラーの故障につながります。また、ボイラーは一般的に 10 年で交換が必要と言われています。

不動産業界によると、３年以上の空き家は人気がないと言われているそうです。実際、私たちが空き家を案内する際も、空いて３年くらいだと住めるイメージが湧きやすいですが、適切に管理されずに３年以上経った家は、現実的に住むイメージがつきづらいと感じています。利活用を考える場合、**空き家になってから３年を一つの目安**にしてはいかがでしょうか。

傷まないためには？

適切に管理していただく以外にはありません。空き家になってすぐは、２週間に１回、１カ月に１回と頻繁に通っていても、お仕事や現在の自宅の管理、ご家庭のご事情などで、だんだん足が遠のくのが現実であり、遠方の場合はなおさらかと思います。しかし、適切な管理なされず、損傷が激しい場合には、解体するしか選択肢がなくなります。解体費用は、年々上がっており、物件にもよりますが、**200 万円～ 500 万円**ほどが想定されます。それぞれにご事情があるかと思いますが、現実をご理解いただき、空き家の今後について早めにご検討いただきたいと思います。

建物を状態よく維持するためには、**月１回の管理**が理想です。



通　風
木造は湿気に弱いため、よく換気する。

通　水
全ての蛇口から水を出す。

草刈り
虫が湧いたり、近隣に迷惑をかけないよう、まめに。

◆ 空家・空き地バンク情報 ◆

以下の二次元バーコードより、常時、最新情報を見ることができます。ご興味のある方は、ぜひご覧ください。

◀三島町空き家・空き地バンク HP

◆ 空き家に関して、お気軽にお問い合わせください ◆
地域政策課　地域政策係　☎（48）5533

地域おこし協力隊活動誌

木質バイオマスエネルギーの検討状況

山本　敬晴

あっという間に２０２２年も終わり、新しい年を迎えました。昨年は、ウクライナ情勢や円安の影響で、燃料をはじめとする物価高に見舞われた一年で、これから少し落ち着くように思われた矢先、昨年末のＯＰＥＣプラス原油減産の発表により、燃料価格の高止まりが懸念されます・・・先々見通せない状況が続きますが、今年はより多くの明るい報道を期待したいものです。

さて、私の活動ですが、先月は三島町地域循環共生圏推進協議会の令和４年度第２回幹事会を開催し、木質バイオマスエネルギーの検討状況の報告と意見交換をさせていただきました。昨年度まで木質チップを燃料とした小型発電設備の導入を目指して検討を進めていましたが、設備の信頼性や燃料供給の課題によって計画を見直すことに。今年度は原点に立ち返り、薪ボイラーによる温泉施設への熱供給の可能性を調査しました。結果的には、一定以上の熱を利用する施設では、灯油（１ℓ１００円）よりもランニングコストを低減できる試算となり、可能性を感じられる状況ではありました。しかし、やはり薪の投入など作業負担の増加や設置場所などの課題があり、これらの解決もしくは別設備（自動投入可能なチップボイラーなど）を検討しないと導入が進められない状況です。今年度も残り少ないですが、これらの課題解決に向け、改めて検討を続けていきたいと思います。

▲ 生活工芸館に設置されている薪ボイラー

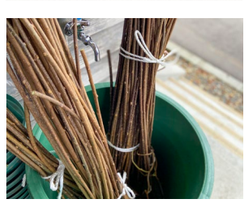
工芸館だより⑳ ～ものづくりの伝承～

マタタビ採取

- 雪降る前のひと仕事 -

マタタビ細工に使われるマタタビは冬の始まりから雪の降るまでが採取時期となります。具体的には11月初旬頃からとなりますが、あまり早いと材の育ちが十分でないので、組んでいる最中に割れの原因となり、必要な強度が出なくなります。よく先生方からは「実（み）のいった材」＝「実が入ってしっかりしている材」を選べと言われます。最初は何のことか分かりませんでしたが、理解できると、的を射た面白い表現だなと感じています。一か所ではそう多くとれないので、数か所をめぐりながら材を集めていきます。この採取地も毎年採取してしまうと適当な太さのものが手に入らないので、温存しておく場所が必要になってきます。みなさん、７月の工芸館たよりで「マタタビの葉は白くなる」とお伝えしましたが、ご覧になりましたでしょうか。たくさん生えているところがありましたら、ぜひご紹介ください。

▶途中、カモシカとにらめっこ



▶今回の成果

冬のものづくり教室開催中！

令和５年１月７日㈯～２月 19 日㈰の毎週㈯㈰開催
９：00 ～ 16：00
※事前予約制

詳しくは、生活工芸館まで。

問 三島町生活工芸館　☎（48）5502

vol.75

健康で元気な毎日！

町民課保健福祉係　☎４８－５５６５

気づかないうちに重症化！
低温やけどの予防と対処

寒い季節となり、使い捨てカイロ、湯たんぽ、こたつ、電気あんかなどの暖房器具を使用することが増えてきたのではないでしょうか。これらの暖房器具は暖かくて気持ちがいい温度（40 ～ 60 度）のため、就寝時に使用している方も多いと思います。

暖かくて気持ちがいい温度でも「やけど」は起こります。そのようなやけどを「低温やけど」と言い、通常のやけどより傷が深く、治りにくいのが特徴です。

◆低温やけどって？

44 度で 3-4 時間、50 度で 2-3 分同じ場所を温め続けることで、低温やけどになります。通常のやけどより皮膚の深い部分がやけどし、治りにくいのが特徴です。

◆低温やけどを予防するための注意点

1　使い捨てカイロは直接肌に貼らない。
　衣服に貼った場合も時々場所をずらす。

2　湯たんぽは就寝前に布団から出す。
　電気あんか、こたつなどは就寝時にはスイッチを切る。

3　電気毛布は体が温まってきたら、スイッチを切る。

◆低温やけどになったら

低温やけどは、皮膚の奥深くで症状が進行するため、表面は軽いやけどを負っただけのように見えることがあります。自己判断で放置せず、病院を受診しましょう。

水ぶくれはつぶさずに、そのままにしておきましょう。

図書のご案内

町民センターゆめぽけっと

●利用時間
㊊～㊎　午前９時～午後９時
㊏㊐㊗　午前９時～午後５時

●お休み
年末年始

問 公民館 ☎（48）5599

●今月のおすすめ

全捨離したら人生すべてが好転する話

著：櫻庭露樹

運がよくなるには、「開運体質」をつくること。それには、あなたの人生のパワースポット「家」の中を変えるしかない。全捨離とは８割のモノを捨てること。あなたの知らない世界にお連れするスピリチュアル実践本。

●図書の紹介

変な絵

著：雨穴

すずめの戸締り

著：新海誠

学校では教えてくれない大切なこと㉕ プログラミングって何？

著：旺文社

町史編さん室だより

第84回

現三島町域における昭和十年代の自動車事情

昭和八年（一九三三）、宮下臨時土木監督所が発行した『管内一班』には、宮下に同監督所を定めた理由として、会津柳津駅への定期自動車があり、比較的便利であることが挙げられています。また同書によれば現三島町域において、乗合自動車が宮下を基点として浅岐・間方間と、西方間で運行していたことがわかります。

右記が一例ですが、町に遺（のこ）された昭和初年代後半の資料から自動車に関する記述が確認できるようになります。例えば西川村外二ヶ村組合村（後の宮下村）の役場日誌や、西方村長も務めた山内政記氏の日記からは、昭和十年（一九三五）前後から自動車やサイドカー付オートバイを利用して出張を行うようになったことがうかがえます。また昭和八年六月には組合村の村長名義で中古のオートバイが宮下臨時土木監督所に寄付されています。トラックの運用方法として貨物ではなく人を乗せた事例も確認でき、昭和十七年（一九四二）十一月十五日、鉄道が延伸していない川口村（現金山町）で中西部武道大会（柔道・剣道・銃剣道）が開催された際、選手を乗せたトラックを往復することで、多数を参加させたとの記事が役場日誌にあります。

それでは当時、降雪・積雪のある冬において自動車の運用はできたのか、できなければ代わりに何を利用していたのかも役場日誌からうかがえます。

昭和十二年（一九三七）十二月三日の日誌には、雪が積もりはじめたので、本日午後より自動車運転中止との記述があります。この日から六日にかけて大雪であったようで、桐やその他の生木の枝が幹から折れるなどのほか、汽車が故障、郵便・新聞・電燈も途絶したそうです。そして十日からは「馬橇（ばそり）道路」の準備がはじまり、十四日に開通したとあります。雪深いこの地域における道路を利用しての貨物運輸は、当時春から秋には自動車を用い、冬には馬橇を積極的に利用していたことがうかがえます。この馬橇用道路の確保は重要だったようで、例えば昭和十四年（一九三九）十二月の役場日誌には宮下の商店に木炭が十日間ほど一俵もない状況が続いたが、ようやく浅岐までの馬橇道路ができたことで、とりあえず学校用として十俵ほどが宮下に到着したという記述があります。

ただし積雪が少なければ、自動車道路を除雪することで、乗合自動車の通行を開始させたといった記事も見られ、十二月末まで自動車が走り続けている年もあります。昭和十八年（一九四三）は十二月二十六日に「本年初ノ大降雪」となったが、積雪はまだ少なかったのか、川口方面よりの貨物自動車の運行は中止していないと書かれています。

また当時は戦時中であることから、トラックが軍に徴発されたこともあったようです。日誌によれば、日中戦争開戦の翌年、昭和十三年（一九三八）八月七日には自動車徴発員が来村、宮下で運送業を営んでいた事業者のトラックが一台徴発されています。同十九年（一九四四）二月二日にも自動車（貨物）徴発令状が交付され、十三年と同事業者所有と推測できるトラックがまたも徴発されています。

昭和十年代には冬期間を除き、貨物トラックは毎日のごとく運行していたようですが、昭和十九年九月十五日からは運輸通信省営〝奥会津線〟（「会津田島」～「会津西方」間）の貨物運輸営業が開始され、いわゆる〝省営トラック〟が村内を走るようになります。現在の県立宮下病院あたりの土地がその車庫となりました。

（三島町史編さん室）

※〝奥会津線〟の貨物運輸営業に関しては第65回の町史編さん室だより（『広報みしま』令和３年６月号）を参照ください。

ご家庭に古い文書や写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。
☎（52）2165

環境研だより　第 54 回

「ゼロカーボン」を改めて解説します

三島町のみなさま、あけましておめでとうございます。これまで環境研だよりでは一人ひとりができる脱炭素行動としてゼロカーボンアクション 30 をご紹介してきましたが、今回は振り返りの意味も込めまして、ゼロカーボンそのものについて改めてご紹介させていただきます。

ゼロカーボンとは、「温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる（差し引きでゼロにする）」ことを意味します。脱炭素、カーボンニュートラルなどとも言われます。

ゼロカーボンとは

CO_2排出量から森林などによる吸収量を差し引いて、"実質的に"ゼロにすること

（Hakuba SDGs Lab　https://hakuba-sdgs-lab.org/events-210520）

この目標を達成するために、2020 年 10 月に「2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すこと」が日本でも宣言されました。

これ以降、ゼロカーボン社会に向けた動きが国内でも多く見られるようになりました。自治体で見ますと、2019 年 9 月時点で「2050 年二酸化炭素排出実質ゼロ」を表明しているのは僅か 4 自治体でしたが、2022 年 11 月には 804 自治体まで増えています。三島町でも「三島町 2050 ゼロカーボン宣言」が行われましたが、東京都のような大都市から、沖縄県竹富町のような小さな町まで、多種多様な特徴を持った地域が、それぞれの個性を活かしたゼロカーボンを目指して取組みを始めています。

ゼロカーボンを目指すにあたって以下の３つのポイントがあります。「①省エネと電化の促進」、「②再生可能エネルギーの地産地消」、「③二酸化炭素の排出削減と森林吸収」、これらをバランスよく考えていくことが大切になります。①ではご家庭で使われている灯油を使う暖房機器を電化したり、家をリフォームするときに断熱性能を高めることで冷暖房に使うエネルギーを減らしたりといった取組みも有効です。これまでの環境研だよりでご紹介したゼロカーボンアクション 30 を参考いただければと思います。②は町全体で考える必要があるように思えますが、ご家庭でも屋根置きの太陽光発電や熱温水器、薪ストーブといった再生可能エネルギー設備の導入が検討できるかもしれません。③は間伐等の適切な整備がなされた森林であれば、二酸化炭素の吸収源として認められることになっており、町にある豊富な森林がゼロカーボンを目指す上で大きな財産になる可能性があります。ただし、前提として「整備された森林」が対象になりますので、①②と合わせて町民の皆さまにも是非一緒に考えていただければと思います。

コロナ禍の影響で昨年度は開催できませんでしたが、5 回目となる「環境研出前講座・三島町町民講座」を 1 月 29 日㊐に開催する予定です。ゼロカーボンや森林の利用など、改めて考えるきっかけづくりになればと考えておりますので、みなさんのご参加を心よりお待ちしております。

〈筆者〉常盤 達彦（ときわ　たつひこ）

みなさま、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。本文にもありますが 1 月 29 日㊐に出前講座を開催する予定となっております！お時間のある方はぜひ足をお運びください！

問国立環境研究所福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室　☎ 0247（61）6572

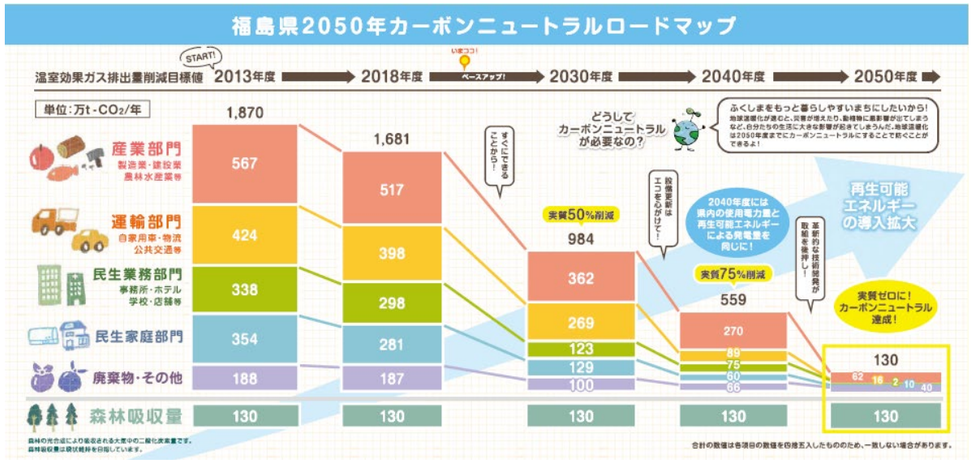
地域循環コラム　第 7 回

～知っておこう！「福島県 2050 年カーボンニュートラル宣言」～

町では、今年度 5 月に「三島町 2050 ゼロカーボン」を宣言しましたが、福島県では、それより以前の 2021 年 2 月に「福島県 2050 年カーボンニュートラル」を宣言しています。今年度 5 月には、「福島県 2050 年カーボンニュートラルロードマップ」が決定され、12 月には、写真のパンフレットが福島県の全世帯に配布されています。

そこで、今回は 12 月に配布されたパンフレットをもとに福島県カーボンニュートラル宣言を知っていただきたいと思い、改めて本コラムでもご紹介いたします。

◆カーボンニュートラルまでの道すじ



県のロードマップでは、2030 年度までに CO_2 排出量を実質 50％の削減、2040 年度時点には県内の使用電力量と再生可能エネルギーによる発電量を同じにして、2050 年度には実質ゼロになるよう目指しています。三島町でも太陽光発電や小水力発電、木質バイオマスエネルギーを中心に再生可能エネルギーの導入に向けた取り組みを行っておりますが、県では、その他にも風力発電や地熱発電といった再生可能エネルギーの導入拡大も進めています。また、それらの余剰エネルギーから生成される水素、アンモニア、合成メタンを発電燃料にすることでも二酸化炭素排出抑制に繋げています。

とは言え、再生可能エネルギーの拡大のみではなく、各部門でも省エネルギー化が必要不可欠であり、県民へは、「こまめな節電」や「省エネ家電への更新」、「エコドライブの実践」、「ゴミを出さない習慣」など、まずは＜すぐにできること＞を呼びかけております。県民総出で実践していく必要があるため、本コラムや国立環境研究所さんの寄稿でも度々取り上げているゼロカーボンアクション 30 の実践を引き続きお願いします。また、当パンフレットには、「想像してみよう！ 2050 年までの自分」といった欄がありますので、ぜひ皆さまも 2050 年の未来の自分を想像してみてください。

【　地域おこし協力隊　山本敬晴（やまもとたかはる）　】

町からお知らせ

ご寄附ありがとうございました（11月分）

ふるさと納税

井口清志 様（神奈川県）
遠山直人 様（東京都）
諏訪二郎 様（沖縄県）
鴇田和子 様（宮城県）
相馬智章 様（福岡県）
丹野光明 様（千葉県）

他32件
計　1,329,000円

1月分納税のご案内

【納期限　1月31日㈫】

▼ 町県民税（普通徴収）（第4期）
▼ 後期高齢者保険料（普通徴収）（第6期）

忘れずに納付ください。

問町民課 町民係 ☎（48）5555

お悔み申し上げます

二瓶フジノ 様（77才・桑原）
石岡ミヨ子 様（91才・大登）
長郷敏子 様（86才・間方）

町の人口と世帯（12月1日現在）

人口	1,412	増減数	−6	出生	0
男	712		−1	死亡	6
女	700		−5	転入	2
世帯	694		−4	転出	2

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

大石田友遊サロン	ほがらかサロン
1月16日㈪ 午前10時から 大石田集会所	1月25日㈬ 午前10時から 森の校舎カタクリ
ひまわりサロン	滝谷和楽塾
1月17日㈫ 午前10時から 町民センター	1月26日㈭ 午前10時から 滝谷集会所
サロンなごみ	サロンないり
1月18日㈬ 午前10時から 西方ふるさとセンター	1月27日㈮ 午前10時から 名入集会所
間方いきいきクラブ	浅岐あったかサロン
1月20日㈮ 午前10時から 間方集会所	2月3日㈮ 午前10時から 浅岐集会所
川井友愛サロン	
1月23日㈪ 午前10時から 川井集会所	

※新型コロナウイルスの感染状況により中止する場合もございますので、ご了承ください。

町社会福祉協議会へのご寄附（ご遺志によるもの）

長郷善一 様（間方）

問社会福祉協議会　☎（52）3344

素敵な出会いをサポートします

「はぴ福なび」会員募集中

福島県で・新たな出会いを求めている方
・婚活に取り組んでいる方　等
一度、登録してみませんか？

福島県に住む20歳以上の独身の方を対象としたマッチングシステムです。2年間で1万円の登録料が必要となりますが、**町が半額の5千円を補助**します。

登録方法など詳しくはHPをご覧ください。

問三島町教育委員会　☎（48）5599

宮下病院からのお知らせ

2023年　新年挨拶

新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が続くなか、新たな変異株が発生し、全国をはじめ県内においても急激な感染拡大がみられました。しかし、この奥会津地域においては年間を通じて感染者数が大変低く抑えられており、ひとえに地域の皆様の感染予防に対する意識の高さと関係職員の方々の御努力による結果と感じております。

また、地域の皆様には来院時の体温測定や面会制限など院内感染対策にご協力を賜り、当院の医療体制を維持することができ、重ねて御礼申し上げます。

本年も、宮下病院の基本理念である「心ある医療」を胸に、皆様が健康でお過ごしになられるよう、職員一同、一丸となって努めてまいります。
本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

福島県立宮下病院　院長　横山秀二

ご寄贈ありがとうございます

12月12日に会津坂下消防署佐藤宏署長が町長室へ訪れ、会津坂下消防署より三島町の高齢者世帯にと住宅用火災警報器80台が町へ寄贈されました。

住宅火災による逃げ遅れ死者を無くすため、リスクの高い災害時要援護者である高齢者世帯で住宅用火災警報器が未設置等である方を対象に今後配布されます。

▲会津坂下消防署佐藤署長より住警器を受け取る矢澤町長

会津坂下警察署からのお知らせ

電子マネー…の番号送れ？

注意!

ご自身の携帯電話やパソコンに
・ご利用料金の件について確認事項がある
・会員登録の解約に手数料がかかる
・10億円が当選したので受取手数料が必要
とメールが届き、相手から電子マネーを購入して番号を送れと言われたら、それは**詐欺**です！！

このようなメールが届いたら、あせらず、まずは家族や警察に相談をするようお願いします。

問会津坂下警察署警務係　☎0242（83）3451

消防署からのお知らせ

文化財防火デー

昭和24年(1949年)1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺の金堂が炎上、壁画が焼損したことに基づいており火災や震災などから文化財を守ろうと全国で防火運動が展開されます。

三島町には、町指定の有形文化財が数多くあり文化財の多くは木や紙、布など燃えやすい素材で作られているため所有者や管理者の皆さんはもちろんのこと周辺の皆さんも火の取り扱いには十分注意し住民共有の貴重な遺産を後世に引き継いで行きましょう。

1月は冷え入りもピークを迎える頃であり暖房器具の使用機会も多くなりますので、十分注意してください。

また、除雪作業時の事故も起きやすい時期です。除雪をする際は、家族や近所にその旨を伝えてから作業を行ってください。万が一のことがあった場合にすぐ連絡できるよう携帯電話を持って作業しましょう。

消防水利の除雪にご協力いただきありがとうございます

町民の皆様には、日頃より自宅近くの消火栓や防火水槽の除雪にご協力いただき、心より感謝申し上げます。消火栓や防火水槽は、火災時に重要な水源となりますので今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

問会津坂下消防署　三島出張所
☎　（52）3032／FAX（52）3033

第50回 雪と火のまつり

3年振りに開催決定!!

令和5年2月18日　三島町町民運動場

国の重要無形民俗文化財指定
「三島のサイノカミ」や
小正月伝統行事を再現

三島町の夜空を
彩るたくさんの
花火

雪上イベントも盛りだくさん

皆さまのご来場をお待ちしています！

問雪と火のまつり実行委員会
（三島町観光協会内）☎（48）5000

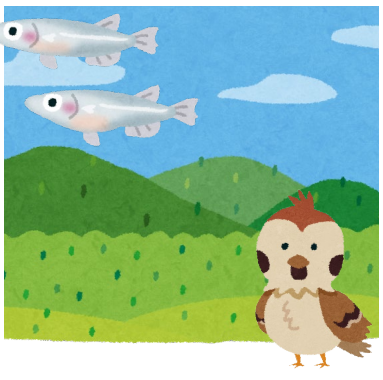
町長日記　～地域からの発想を大事にする理念の構築は～　No. 87

町民の皆様、あけましておめでとうございます。虎から兎の「節目の年」となります。コロナ感染症が収束し、マスクが必要のない干支になることを願うと同時に、ウクライナとロシアの戦争が終結し、穏やかな世界や日本そして三島になることを願うばかりです。

令和5年の三島町は、しなやかに穏やかで、さらに品格のある文化の町にしていきたいと考えています。一人ひとりが「しなやかさ」「文化」「品格」等々を考えていく地域にし、「積極的に具体的な行動」と「思索」ができる基盤づくりをすることが、私に求められている責任であることを自覚しています。

『雀の学校』と『メダカの学校』の詩にもある「むちをふりふり」と「誰が生徒か先生か」の二つの理念を比較すると、教育を原点とした持続可能な三島を創ることができる地域づくりは、「メダカの学校」にあると思います。「メダカの学校」の理念を具体的な行動に移すことが、これからの時代を担う先駆的地域になると確信しています。

三島町長　矢澤　源成



みしま 1
January 2023
広報みしま 1月号（第359号）
令和5年1月13日発行（毎月第1金曜日発行）
■発行　三島町　■編集　三島町役場　地域政策課
〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350　☎0241（48）5533
■ホームページ　http://www.town.mishima.fukushima.jp
■印刷　三洋印刷株式会社